

平成26年11月4日

松阪市議会議長
水谷晴夫様

松阪市議会議員
久松倫生

11月1, 2日神戸市内で催された、第40回国民融合をめざす全国会議主催の全国交流集会へ参加しましたので、報告します。

40回といわれていますが、1974年11月22日に兵庫県で起こったいわゆる八鹿高校の解放同盟による集団暴力事件は、その後の同和行政や部落解放運動の展開に大きな影響を与えた歴史的な事件でした。それから40周年ということになります。その後、全解連（現人権連）がつくられ、「国民融合」の考え方ができあがっていきました。

私自身のこの間の議会活動で、「人権同和」の不公正の一掃を中心的な課題の一つとしてきましたが、そうした「たたかい」の原点のような位置づけができる事件であり、今日の到達とこれからの課題をとらえる上で節目と思いました。それゆえに本交流会と総会に参加して、論議に加わった意義は大きいと思います。以下、報告いたします。

1日は、交流集会が持たれて、主催者の問題提起とともに次の報告がありました。

- (1) 八鹿高校事件を振り返って 元八鹿高校教諭
- (2) 「法」失効後の実態—兵庫県東播地方の現状と課題について 兵庫人権連
- (3) 和歌山市における人権（同和）啓発における課題について 和歌山県会議
- (4) 憲法・国際人権法に違反する兵庫県但馬「養父市議選」不当調査事件 兵庫国民救援会

その他 岐阜県からの報告がありました。

以上のなかで、兵庫の報告において、住宅入居に解放同盟幹部の「推薦カード」があるという話が出ていました。なぜそんなことがいまだにあるのかと質問したら、密かにやられていたままたま相手が出している文書か何かで発覚したとのことでした。議会でも追及してやめさせたそうですが、「同和」の不公正がそんな形で隠ぺいされて続けられているということです。松阪の啓発冊子のことも報告し、特定の人物へのカネの流れがわかり、解放同盟からも除名されるというところまで追い込んだ事を述べました。徹底して調査すれば、いろんな地域、自治体で手を変え品を変え、利権のための隠ぺいがあるのかと実感しました。共通の認識になったと思います。

2日目の総会では、主催者側から40年に及ぶ到達のなか、新たな部落問題解決の理論的な展開の時期であり、かつての暴力や不公正との対決を経て、次の段階へ進むべき論議の必要性が述べられました。

重要な提起であり、自分としてもこれまでの到達に確信を持ちながら、ただ不公正のたたかいにとどまらない地域づくりや自治体づくりへ取り組む大事さを実感しました。この間不十分だった理論的な課題を改めて勉強しようと思ったところです。

以上